

# 平成23年度事業報告書

(財)こうべ市民福祉振興協会は、「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念である市、事業者及び市民の三者が有する人材、資力などを総合的に活用することによって市民福祉を振興するための事業を創造・推進させ、そのことにより市民福祉の向上に寄与することを目的とした事業を運営している。

平成23年度は、経営環境の変化や市の市民福祉に係る施策を踏まえ、事業の再構築や新たな市民福祉事業の創造・開発に取り組むための経営指針として策定した「中期経営計画2014（計画期間：平成23年度から平成26年度の4ヶ年）」の初年度であり、引き続き効率的な経営に取り組むとともに、市民福祉を振興するための各種事業に取り組んだ。

## 1 福祉意識の啓発

市、事業者及び市民の三者の連携による市民福祉の理念への理解を深めるための啓発事業を実施した。

### (1) 情報誌の発行

市民福祉の啓発としあわせの村での事業紹介を目的として、情報誌「市民ふくし～しあわせの村だより」を発行した。

また、23年度から啓発事業のさらなる充実を図るため、増刷及び増頁を実施した。

発行回数 年6回 (年6回)

発行部数 25,000～30,000部/回 (15,000部/回)

※ 以下( )内の数値は、特に記載のあるものを除き22年度実績である。

### (2) 協会ホームページの運営

協会の経営情報を含め市民福祉振興のための協会の取り組み内容を幅広く情報発信をするため、ホームページを運営した。

### (3) 福祉機器展示コーナーの運営及び福祉機器リサイクル事業の実施

#### ① 福祉機器展示コーナー

身体障がい者や高齢者の快適な生活を支援するために、市立心身障害福祉センター内に福祉用具や介護用品などの日常生活に必要な用具・用品を展示するとともに、最新の福祉機器情報を提供する「福祉機器展示コーナー」を運営した。

来場者数 3,989人 (4,137人)

相談件数 2,254件 (1,859件)

## ② 福祉機器リサイクル事業

福祉機器展示コーナーに「善意の品物交換情報」の掲示板を設置し、使用していない福祉用具(車いす, ベッドなど)のリサイクル情報の提供, 仲介, 調整を行うとともに, 必要な場合に運搬費などの援助を実施した。

[福祉機器リサイクル事業の実績] (件数)

① 申込件数	98 (135)
譲ります	52 ( 63)
譲って	46 ( 72)
② 契約成立件数	30 ( 54)
ベッド	10 ( 20)
車いす	16 ( 29)
その他	4 ( 5)
③ 運搬費等支援件数	6 ( 7)

## (4) 「しあわせの村」等での啓発事業

### ① 「ふれあい体験学習」の実施等

社会福祉に関心を持つグループ・学校・企業などを対象に, 福祉に関する講義, 車いす, 白杖及び高齢者疑似体験用具を用いた介助の実習, 村内福祉施設での実習並びに車いす・アイマスク・高齢者疑似体験用具の貸し出しを行った。

また, 23年度から市内の小学校や事業所へ出向き, 体験学習を実施することとした。

#### ア ふれあい体験学習

- 37団体 2,339人 (27団体 1,641人) ※次の重複利用を除く純計
- ・車いす, アイマスク体験 33団体 1,778人 (27団体 1,351人)
  - ・高齢者疑似体験 14団体 246人 ( 5団体 290人)
  - ・村内施設実習 6団体 315人 ( 4団体 340人)

#### イ 車いす・アイマスク・高齢者疑似体験用具の貸し出し

9団体 (17団体)

### ② 介護教室の開催

「しあわせの村」に加え, 23年度から新たに垂水年金会館においても, 福祉意識の向上, 介護知識・技術の取得などを目的とした介護教室を行った。

しあわせの村 2回 32人 (2回 32人)

垂水年金会館 1回 4人

### ③ 「第22回こうべ福祉・健康フェア」の開催

社会福祉施設及び福祉関連団体等による模擬店の出店や健康に関する正

しい知識の普及・啓発を行うことにより、互いに福祉や健康について語り合い、ふれあう機会として「こうべ福祉・健康フェア」を、神戸市等との共催により開催した。

開催日 10月2日

参加者数 14,000人(8,000人)

④ 「こころのアート展」の開催

芸術活動に取り組む障がい者を公募し、その作品の魅力を広く世に知っていただくとともに、活躍の場を拓くことを目的とした作品展を23年度より新たに開催した。

また、開催期間中に、市内特別支援学級等による協同作品展や市民が参加・交流するワークショップも併せて行った。

開催期間 11月2日～13日

来場者数 3,600人

⑤ 障がい者就労カフェの運営

障がい者就労の場の拡充と来村者への福祉意識の啓発を目指し、「しあわせの村」総合センター1階において、障がい者と健常者がともに働く障がい者就労カフェの運営を行った。

利用者数 68,956人(65,179人)

⑥ 授産品及びユニバーサルデザイン製品展示コーナーの運営

「しあわせの村」総合センター及び温泉健康センターにおいて、市内及び東北の障がい者施設の授産品やユニバーサルデザイン製品を紹介するコーナー（愛称「はっぴねすコーナー」）の運営を行った。

[授産品] 7施設 計約90種

[ユニバーサルデザイン製品] 3団体 計約50種

⑦ 福祉ショップ等における授産品販売機会の提供

「しあわせの村」内の障がい者団体の運営する福祉ショップや温泉健康センター内直売所「しあわせマルシェ」及び保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺等において、市内及び東北の障がい者施設の授産品の販売の場を提供した。

⑧ ユニバーサルデザインの普及啓発

障がい者施設やボランティア団体と連携し、市の開催するイベントに参加・協力し、ユニバーサルデザインの普及啓発活動を行った。

・ 「こうべユニバーサルデザインフェア2011」へ出展

- ・ 「こうべUD大学」，「夏休み子どもUD教室」への参加・協力

## 2 市民の福祉活動の振興

市民の福祉活動への参加を促進し，市民福祉を維持し高めるための事業を行った。

### (1) 市民福祉事業・福祉活動への助成

市内で意欲的に福祉に関する活動を行うボランティアグループや団体に対する単年度の助成のほか，23年度から市民福祉活動に取り組む団体の設立や新たな事業の立ち上げを支援する複数年助成を行った。

助成件数 18件 助成金額 5,430千円（16件 5,240千円）

### (2) ボランティアの養成を目指した講座の開催

- |                |      |      |       |       |
|----------------|------|------|-------|-------|
| ① 手話講習会受講者     | 年26回 | 27人  | (年26回 | 30人)  |
| ② 点訳講習会受講者     | 年25回 | 24人  | (年25回 | 20人)  |
| ③ ボランティア研修・交流会 | 年4回  | 延57人 | (年2回  | 延13人) |

### (3) 高齢者による地域貢献活動の支援

神戸市シルバーカレッジの学生が，地域社会と連携しながら，ボランティア活動を実践する地域交流活動を行った。また，主として卒業生で結成するNPO法人「社会還元センターグループわ」による社会貢献活動に対する支援を行った。

## 3 市民福祉事業の企画及び実施

協会内に係長級職員による「市民福祉事業研究開発プロジェクトチーム」を設置し，発達障がい児への支援策等の今後の新規事業となりうるテーマについて国内先進事例等の調査・研究や事業化に向けた検討を行うとともに，内容をまとめた報告書を作成した。

## 4 高齢者等のための市民福祉施設の管理運営

### (1) サン舞子マンション事業の終息

サン舞子マンションについては，平成23年4月に所有権を社会福祉法人へ移転し，事業を承継した。

事業承継後も，協会は引き続き入居者からの相談等のフォローを行った。

終息時入居戸数 26戸，入居者数 29人

## (2) 垂水海浜センターの管理運営

市民の教養文化の向上と福祉の増進を図るため、垂水年金会館及び駐車場の管理運営を行った。

また、23年度は障がい者用駐車スペースの設置工事を行い、市民にとってより利用しやすい環境の整備に取り組んだ。

[利用状況]

施設内容	利用人数・台数	利用件数
垂水年金会館	103,495人 (92,787人)	
ホール・会議室	70,652人 (59,220人)	2,104件 (2,061件)
児童館	6,430人 (7,350人)	
地域福祉センター	17,516人 (15,065人)	
区社協ボランティアコーナー	8,897人 (11,152人)	
駐車場	19,828台 (17,386台)	

## (3) 保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺（なでしこの湯）の運営

高齢者及び障がい者をはじめ、多数の市民に保養と健康維持の場として利用されている保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺（愛称「なでしこの湯」）について、引き続き民間のノウハウを活かした運営を行うとともに、施設の良い維持管理や福祉事業の推進について、運営事業者と連携して取り組んだ。

[利用状況]

施設内容	利用人数
宿泊棟	10,469人 (8,940人)
温泉棟	260,398人 (209,624人)

(※ 22年度は宿泊棟・温泉棟ともに、9月1日から11月30日までの間、改修工事のため休業)

## 5 神戸市からの委託による市民福祉事業の実施

### (1) 介護保険関連事業

介護保険法に基づき、公正・公平が要求される「要介護認定調査業務」及び地域包括支援センターの「巡回調査業務」を市からの委託により実施した。

認定調査業務 指定市町村事務受託法人として、新規・変更ケースの認定調査  
調査件数 27,183件 (26,114件)

巡回調査業務 地域包括支援センターを対象に、介護予防ケアマネジメント業務に対する調査・助言やセンターの運営状況の確認 など  
訪問回数 56か所 延1,326回 (74か所 延1,822回)

### (2) こうべ長寿祭

スポーツや文化活動を通じて、高齢者の心身の健康保持・増進を図り、長寿

社会における健康と福祉に関する市民の理解を深めることを目的として「こうべ長寿祭」を開催するとともに、「全国健康福祉祭」へ神戸市代表選手団を派遣した。

- ① 第24回こうべ長寿祭 4月26日～10月30日
  - スポーツ大会 ゲートボールほか13種目  
参加者数 2,940人(2,719人)
  - 文化行事 全国シルバー合唱コンクール(9月16日)ほか3行事  
参加者数 1,688人(1,699人)  
作品展 198点(202点)
- ② 第24回全国健康福祉祭くまもと大会 10月15日～18日  
神戸市代表 125人 12点(126人 12点)

## 6 総合福祉ゾーン「しあわせの村」の運営

「神戸市民の福祉をまもる条例」の基本理念である「自立と連帯」の実現をめざし、高齢者・障がい者をはじめとするすべての市民があたたかいふれあいの中で思いやりや助け合いの心を育み、「つどい」・「楽しみ」・「学び」・「憩う」場として、「しあわせの村」の総合的運営を行った。

23年度は、一部施設において改修工事に伴う臨時休業や利用制限を行ったものの、「こころのアート展」や「しあわせNewYearマラソン」等の新たな事業を行ったほか、利用促進活動の強化による宿泊施設における利用者の増もあり、22年度と比べると、入村者は増加した。

[平成23年度「しあわせの村」利用状況]

	利用者等	対前年度比	収 入 額
入村者総計	1,823,500人 (1,807,900人)	100.9%	
入村車両総数	1,529,903台 (1,529,889台)	100.0%	
有料車両数	303,935台 (314,075台)	96.8%	131,749千円
施設利用者合計	1,057,850人 (1,069,710人)	98.9%	
宿 泊 施 設	85,321人 (82,942人)	102.9%	233,667千円
宿泊館(総合センター)	35,346人 (35,183人)	100.5%	119,598千円
たんぽぽの家	11,507人 (11,638人)	98.9%	41,353千円
あおぞら	27,164人 (24,476人)	111.0%	40,171千円
保養センターひよどり	11,304人 (11,645人)	97.1%	32,546千円
研 修 館	101,083人 (99,147人)	102.0%	7,534千円
温 泉	228,757人 (229,818人)	99.5%	99,291千円
屋内運動施設	290,698人 (299,694人)	97.0%	51,244千円
プ ー ル	98,889人 (102,513人)	96.5%	29,036千円
体 育 館	103,807人 (110,145人)	94.2%	10,431千円
トレーニングジム	88,002人 (87,036人)	101.1%	11,777千円
屋外運動施設	351,652人 (357,651人)	98.3%	55,959千円
茶 室	339人 (458人)	74.0%	286千円

### (1) 施設の管理運営

専門的能力を有する事業者と共同事業体を構成し、「指定管理者」として運営を行った。

協会は、共同事業体代表法人として、運営全体の総合調整を行うとともに、利用者の安全・安心の確保や園地・駐車場の管理、シルバーカレッジの運営を行った。

また、市民福祉の理念のさらなる実現を目指し、福祉的事業や市民ふれあい事業等を企画・実施した。

一方、各施設の管理運営については、共同事業体各構成団体が互いに連携

をとりながら、専門的能力を発揮することにより、全体として利用者サービスの向上に取り組み、市民福祉の拠点施設である「しあわせの村」の事業運営の充実を図った。

## (2) ユニバーサルデザインの推進

市が進めるユニバーサルデザインの一環として、協会において策定した「ユニバーサルデザイン推進指針」に基づき、当事者の意見や他施設における先進事例を参考にしながら「しあわせの村」をユニバーサルデザインの視点から検証し、誰にでもやさしい「村」づくりを進めた。

ア 視覚障がい者歩行誘導ソフトマットや視覚障がい者用音声案内ラジオの設置（総合センター，温泉健康センター）

イ 館内案内板表記内容の拡充（多言語，ピクトグラム）（総合センター，温泉健康センター）等

ウ 高齢者や障がい者も利用しやすいトレーニング機器の増設

## (3) 健康づくりの支援

「しあわせの村」が市民の健康づくりの拠点としての機能をさらに発揮できるように、ソフト・ハード両面での充実に取り組んだ。

① 「保養センターひよどり」において、高齢者の健康維持増進を目指し、軽スポーツや医師の講話等を行う健康教室や介護予防教室を実施した。

健康教室 10回 99人（10回 115人）

介護予防教室 172回 1,882人（148回 2,033人）

② 男性高齢者の食生活の改善や自立を支援することを目的に、調理の基礎知識から指導する「60歳からの男性料理教室」を実施した。

3回 72人（3回 72人）

③ 村内各施設において、高齢者・障がい者の健康増進，心身機能の維持・回復や生きがいつくり等を目的に各種スポーツ教室を実施した。

[高齢者向けスポーツ教室]

教室名	参加者数
水中健康体操	98人（116人）
高齢者水泳	186人（186人）
卓球	124人（129人）
バドミントン	50人（55人）
テニス	220人（215人）
アーチェリー	139人（155人）
合計	817人（856人）



[障がい者向けスポーツ教室]

教 室 名	参 加 者 数
身体障がい児親子水泳	92人 (100人)
知的障がい児親子水泳	124人 (138人)
身体障がい者水泳	132人 (107人)
知的障がい者水泳	83人 (94人)
ダウン症キッズ水泳	21人 (—)
身体障がい者・児卓球	65人 (65人)
身体障がい児運動あそび	16人 (17人)
知的障がい児運動あそび	24人 (23人)
身体障がい者テニス	87人 (89人)
身体障がい者アーチェリー	60人 (71人)
合 計	704人 (704人)

[リハビリ水泳教室] 335人 (356人)

[ニュースポーツ(バスケットボール・サッカー等)教室] 353人 (201人)

- ④ 高齢者，障がい者や親子等の幅広い市民が参加・交流し，共に楽しく走ることを目的としたマラソン大会として，「しあわせNewYearマラソン」及び「しあわせふれあいラン」を23年度より新たに開催した。

開催日 1月9日

参加人数 1,648人

- ⑤ 村内で開催されるKOBE OPEN国際車いすテニストーナメント(4月)，神戸カップグラウンドゴルフ大会(4月)，関西学生対抗女子駅伝競走大会(9月)，あじさいロードレース(11月)，KOBEトラック&フィールドスクール(年5回)等のイベントについて，支援・協賛した。

- ⑥ 市民が気軽にウォーキングによる健康づくりに取り組めるよう，歩道舗装の整備等により安全で快適な環境の維持に取り組んだ。

#### (4) 高齢者・障がい者の自立や社会参加への援助

「しあわせの村」の理念を実現するため，共同事業体各構成団体と連携して，村内の業務の中で高齢者・障がい者の就労の場の確保を図るとともに，自立や社会参加のための活動を援助した。

- ① 「しあわせの村」の運營業務に従事する職員に，高齢者・障がい者を雇用した。

雇用者数 83人 (79人)

② 村内の園地管理の一部と空き缶回収・ゴミの分別収集業務や温泉健康センター販売コーナーの清掃業務及びシイタケ・ブルーベリー等の栽培を(株)いくせいに委託し、知的障がい者の就労機会の確保を図った。

就労者数 48人 (46人)

③ 村内の園地管理、宿泊施設やキャンプ場の受付等において、シルバー人材センターへの委託や人材派遣により、高齢者の就労機会の確保を図った。

就労者数 41人 (32人)

④ 村内の管理業務の一部を村内の障がい者施設に委託して実施した。

- ・ 宿泊館リネンの交換・清掃 (ワークホーム緑友, グリーンホーム平成)
- ・ 保養センターひよどり周辺の園地管理 (ワークホーム緑友)
- ・ プール・体育館の清掃 (ワークホーム緑友)
- ・ 自動販売機の管理 (ワークホーム明友)

⑤ 村内の自然資源等を活用した名刺を市内障がい者施設(御影倶楽部)と共同で製作した。

⑥ 村内各種事業や行事における記念品等を障がい者施設から購入した。

⑦ 開村記念日に合わせて村内に飾るバナーの製作などを村内社会福祉施設に依頼した。

⑧ ユニバーサル農園において、レクレーションや機能回復等の一環として、村内の福祉施設と協働で、野菜等の栽培・収穫を行った。

また、11月には“収穫祭”を行ったほか、収穫物を馬事公苑の馬に与える体験活動も行った。

⑨ 障がい者就労カフェの運営 (再掲)

「1 福祉意識の啓発」の(4)⑤参照

⑩ 授産品及びユニバーサルデザイン製品展示コーナーの運営 (再掲)

「1 福祉意識の啓発」の(4)⑥参照

⑪ 福祉ショップ等における授産品販売機会の提供 (再掲)

「1 福祉意識の啓発」の(4)⑦参照

## (5) 市民ふれあい事業の企画及び実施

すべての市民が「つどい」・「楽しみ」・「学び」・「憩う」場を提供するため、各種のイベントを企画し、村内施設の利用者や市民グループなどが参画する機会を提供するとともに、高齢者・障がい者、ボランティア、来村者などすべての市民が交流する場を提供した。

### ① 第21回しあわせの村まつりの実施 [7月30日]

村内の施設や地域住民が一体となって、広く市民が交流する場として、しあわせの村まつりを開催した。

参加者数 20,000人(19,000人)

### ② 第21回ふれあいコンサート [4月17日]

公募による障がい者、高齢者、ボランティア活動を行っている音楽グループが出演するコンサートを行った。

出演者数 27団体 369人 (27団体 354人)

来場者数 700人 (750人)

### ③ マンスリーミニコンサート [毎月1回]

総合センターエントランスホールにおいて、神戸市混声合唱団によるコンサートを開催した。

来場者数 計3,800人 (計3,530人)

### ④ リサイクルバザー [6月5日, 9月25日, 11月13日, 3月25日]

資源の有効活用を通じた環境意識の啓発を目的に、市民出店者による不用品等のリサイクルバザーを開催した。

来場者数 計55,000人 (計48,000人)

### ⑤ わいわいストリート [5月5日]

親子で楽しく遊べる昔あそび等を「グループわ」と共催し、世代間交流の場を提供した。

参加者数 1,200人 (950人)

### ⑥ 緑のオリエンテーリング [7月2日, 11月3日]

参加者が村の豊かな自然環境を体感しながら、クイズラリーなどを楽しめるオリエンテーリングを開催した。

参加者数 計367人 (450人)

- ⑦ ファミリー日帰りキャンプの実施 [9月11日]  
身体・知的障がい児とその家族がボランティアとともにゲームや飯ごう炊さんを楽しむデイキャンプを実施した。  
参加者数 90人 (104人)
- ⑧ 親子料理教室の開催 [8月6日, 7日, 12月3日, 4日]  
子どもが食材に触れ, 楽しみながら食に関心を持つとともに, 料理を通じた親子のふれあいの場を提供した。  
参加者数 計104人 (65人)
- ⑨ 市民公募型イベントの実施  
来村者が気軽に参加し楽しめるとともに, 福祉や健康の増進並びにしあわせの村の活性化につながるイベント企画を公募し, 運営経費の一定額を助成した。  
「世界の若者サミット2012」(3月17日) 来場者数 100人  
「かいご&癒しフェスタ」(3月31日) 来場者数 300人
- ⑩ おはなしの会の開催 [計29回]  
わいわいハウスにおいて, ボランティアグループによる大型絵本や紙芝居の読み聞かせを行った。  
参加者数 計844人
- ⑪ 「ふれあい体験学習」の実施 (再掲)  
「1 福祉意識の啓発」の(4)①参照
- ⑫ 「第22回こうべ福祉・健康フェア」の開催(再掲)  
「1 福祉意識の啓発」の(4)③参照

## (6) ボランティアの養成と活動推進

「しあわせの村」の理念を実現するには, 村でのボランティア活動の果たす役割も大きいことから, ボランティア養成に係る講習会を開催するとともにボランティアが活動しやすい環境の整備や活動機会を積極的に提供した。

- ① ボランティアの養成を目指した講座の開催(再掲)  
「2 市民の福祉活動の振興」の(2)参照
- ② ボランティア活動の推進  
しあわせの村での事業にボランティアの参加を広く求め, 活動の場の提

供と活動の支援を行った。

ア 障がい児，障がい者向けスポーツ教室の指導補助

登録128人 延1,370人（48人 延1,433人）

イ 各種イベントの運営補助

登録122人 延 50人（42人 延 52人）

ウ 花・緑ボランティア

登録 68人 延 218人（61人 延 278人）

エ 村内活動サークルのボランティア

○ 点訳サークル「シックスポイント」 登録38人（36人）

（活動内容）点訳講習会講師派遣，村内各種表示の点訳，イベントにおける点字コーナー等の出展

○ 手話サークル「すずらん」 登録40人（49人）

（活動内容）手話講習会修了者のスキルアップ，聴覚障がい者への情報提供と交流促進，協会主催イベントでの手話通訳

## (7) 魅力ある緑地の維持管理

一年中花が見られ，市民の憩いとリフレッシュの場として人気が高い「しあわせの村」の緑地について，引き続き快適な空間として良好に維持管理するとともに，「水仙ロード」の拡張やシダレザクラの植栽を行い，さらなる魅力の向上に取り組んだ。

また，「しあわせの村」の豊かな自然環境を生かしたイベントとして，月見の夕べや日本庭園における桜や花菖蒲のライトアップ，野鳥観察会の開催等来村者が緑あふれる豊かな自然環境を楽しむことができるイベントを行った。

## (8) 神戸市シルバーカレッジの管理運営

① 高齢者の豊富な経験を活かして自らの可能性を拓き，その成果を社会に還元することを目指す学習・交流の場として，シルバーカレッジの管理運営を行った。

ア 学生数

・定員 1,260人（1学年 420人）

・年度末在籍者数(休学者含む) 1,174人(1,186人)

イ 入学資格

市内に住所を有する57歳以上の方

ウ コース編成

・健康福祉コース

・国際交流・協力コース

・生活環境コース

・総合芸術コース（美術・工芸，音楽文化，園芸，食文化）

エ 授業

共通・専門・地域交流・スポーツ授業を組み合わせたカリキュラムにより、ボランティア精神を培えるよう実施した。

#### オ 社会還元

在校生の地域交流グループ、ボランティアグループ及び卒業生を中心とするNPO法人「社会還元センターグループわ」が、地域で各種社会還元活動を行い、建学の精神を実践した。

##### ・地域交流グループ

グループ数 62グループ 活動参加者数 延9,257人(62グループ 延8,285人)

##### ・ボランティアグループ

加入者数 延1,389人 活動参加者数 延15,497人(延1,590人 延14,671人)

##### ・グループわ

登録会員数 1,254人 活動参加者数 延20,376人(1,153人 延22,186人)

#### ② 公開講座等の実施

広く一般市民に学習機会を提供するため、夏季公開講座、まちかどキャンパス(須磨区)、一般聴講講座(4回)を開催した。

#### ③ 卒業生の主なボランティア活動実績

ア シルバーパソコン講座の実施 活動 延 531人(延 427人)

受講 延2,087人(延1,435人)

イ 地域における介助・生活支援等福祉ボランティア、施設への慰問

活動 延7,156人(延7,196人)

ウ 外国人への日本語指導・生活相談、留学生との交流会の実施

活動 延 149人(延 596人)

エ 里山づくり等環境保全、環境教育活動

活動 延4,314人(延4,415人)

オ 地域での青少年育成事業、イベント運営及びガイド等

活動 延4,940人(延5,895人)

カ 小学校・特別支援学校での子どもたちの学習支援活動等

活動 延2,922人(延3,176人)

キ スポーツによる健康づくり、いきがいくりの支援

活動 延 364人(延 481人)

#### (9) 利用促進の取り組み

共同事業体各構成団体と連携して、「しあわせの村」への理解を一層深めていただくとともに、来村者誘致や魅力づくりを行った。

① 全村的な入村者アンケートを実施する(10月)とともに、共同事業体構成

員が各運営施設において把握した意見やアンケート結果についても、情報を共有し、各構成員の参画による「おもてなしサービス向上検討委員会」等において、具体的な改善策やサービス向上策を検討し、利用者満足度の向上に取り組んだ。

- ② 施設の案内やイベント等の新着情報を掲載したホームページを引き続き運営するとともに、23年度より新たにメールマガジン「しあわせ倶楽部」の配信を開始した。（2月から）
- ③ レストラン利用者に対する駐車料金サービスを拡大した。（6月から）
- ④ 村内に屋外掲示板を設置したほか、市営地下鉄名谷駅に広報ラックを設置した。
- ⑤ 温泉健康センター内において、地場野菜や鮮魚等の直売所「しあわせマルシェ」の運営を行った。
- ⑥ 温泉健康センターと近隣地区（鈴蘭台、北須磨団地）を直結する無料シャトルバスを運行した。
- ⑦ 宿泊等団体客向けに無料送迎バスを運行した。

## 7 業務・経営改善の推進

協会では、平成23年度から4ヵ年の基本方針及びこれに基づく重点施策を示した「中期経営計画2014」を策定し、年次行動計画(アクションプラン)のもとで計画の実現に向け取り組んでいる。

計画の初年度である23年度は、「しあわせの村」事業においては、民間事業者と連携しながら、利用者サービスの向上等に取り組んだ結果、入村者数については、計画目標を達成することができた。

また、組織運営においては、引き続き市派遣職員の固有職員等への置換えを行ったほか、平成25年4月の公益財団への移行を目指した運営計画の検討を進めた。

なお、財務運営においては、損益収支及び正味財産期末残高ともに計画目標を達成することができた。

## 8 東日本大震災被災地支援活動の実施

平成23年3月から4月にかけて募った「神戸市民からの救援物資募金」による

支援物資の被災地への送付に続き、支援活動を行った。

ア しあわせの村関連団体と協力して、「しあわせの村支援隊」を結成し、被災地を訪問して、神戸市民からの応援メッセージを届けたほか、コンサートや昔遊び等を行った。

また、24年の新年を迎えるにあたって、訪問した学校や仮設住宅等にメッセージカードを送付した。

イ しあわせの村内にて被災地の障がい者施設の授産品の販売を行った。

ウ 村を利用して被災地域の児童等を神戸へ招待する事業や被災地から神戸へ避難している方への支援事業に対して協力を行った。